

菩提樹
第65号

平成30(2018)年
3月10日発行

浄土真宗本願寺派
龍護山
正定寺
住職 東森尚人

〒633-0316
奈良県宇陀市
室生向洲 853

TEL・FAX
0745-92-2540

MOBILE
090-7369-9753

Web
<https://www.shojoji.info>
または「正定寺」検索

Mail
naoto7010.ne@gmail.com

菩提樹

Bodaiju

正定寺 寺報

第65号

今年、正定寺は開基670年、本堂再建250年を迎えました。



5月20日は宗祖降誕会・すずらん TERA カフェ・コンサート

<法語>

もったい
勿体ない

もったい
勿体は物体で
仏教用語
本来あるべき姿

「勿体ない」で、「不都合である」、「かたじけない」などの意味で使用されていた。

転じて「物の価値を十分に生かしておらず無駄になっている」状態やそのような状態にしてしまう行為を、戒める意味で使用される。

正定寺は
どなたでも、ご自由に
お参りできます

◆住職閑話 食品ロス

先日、節分で恵方巻きが大量に廃棄されたと大きく報道されました。(注)

日本では、売れ残りや食べ残しなど、まだ食べられるのに廃棄される食べ物、いわゆる「食品ロス」が年間621万トン(2014年度推計)になり、国民の全員が毎日ご飯を一杯ずつ捨てている計算になるそうです。

世界では9人に1人が栄養不足と言われ、各国や団体などから320万トン(2014年)の食料援助が行われていますが、その約2倍の量を、日本では廃棄しているそうです。

取り組み

国連が2015年に採択したSDGs(エスディージーズ)(持続可能な開発目標)では、2030年までに「1人あたりの食料廃棄の半減」を目標としています。食品業界や国、自治体も食品ロスへの取り組みもはじめられ、食品の寄贈を受け生活に困る人に届ける「フードバンク」や、宴会の始め30分と終わり10分は食事に専念する「3010運動」も展開されています。

主な予定

◆3月10日・11日

春の法要

永代経法要

開基会

開基670年

記念法要

講師・冬野正隆師

◆3月16日(金)

宗祖月忌法要

6:30

◆3月18日～24日

春季彼岸会

6:30 17:00

◆3月21日(水)

門徒講春季彼岸会

吉光尼公会

9:00

◆4月1日(日)

月初晨朝勤行

6:00

◆4月6日(金)

日曜学校進級式

13:30

◆4月10日(火)

聖徳太子会

ご法話会

13:30

◆4月16日(月)

宗祖月忌法要

6:00

◆4月29日(日)

花まつり

5月20日(日)

9:30-11:00

宗祖降誕会

法話 養父市正定寺

藤原 慎 師

11:00-14:30

すずらん TERA

カフェ

コーヒー無料

物産販売

11:10-11:30

正定寺ご縁トーク

12:00-13:00

すずらん TERA カフェ

コンサート

ちくげん ゆう
竹絃 遊の会

家庭から

この食品ロスの半分は家庭からです。専門家の井出留美さんは「食品の新しさや完全性を求める消費者意識の変化、各家庭で食材を使い切る工夫、残り物は別の料理へなどが必要」と指摘しています。まさに「もったいない」の精神で、今一度生活を振り返る必要があるのではないのでしょうか。

食事のことば

食事は、毎日の生活に欠かせません。その食事をする行為を「食事をいただく」のか「メシを食う」のか言葉の表現で意味するところは、大きく異なってきます。宗門では「食事のことば」の奨励を行なっています。

<食前のことば>

・多くのいのちと みなさまのおかげにより
このごちそうを めぐまれました
深くご恩を喜び ありがたく いただきます

<食後のことば>

・尊いおめぐみを おいしくいただき
ますます御恩報謝に つとめます
おかげでごちそうさまでした

「食事のことば」は、手を合わせ合掌し、常に声を出すことによって、ただ漠然と食物を摂り、栄養を補給するだけでないことを示しています。

仏法に照らされ、多くのいのちをいただければ生きていけない私のあり方に対し、「申し訳ない」との慚愧の心と、さまざまな「おかげ」によって、今この食事をいただき、生きていくことができることへの「ありがとうございます」との感謝の心と呼び起こすことを目指しています。

「メシを食う」のではなく、「食事をいただく」想いで、また「もったいない」の精神を忘れず、ぜひ「食事のことば」を唱和していただきたいと思います。

(注)

浄土真宗では、恵方巻きを行なっていません。否定や禁止をしているのではなく、仏法に教え導かれ、煩惱にとらわれた我が身を知らされると、方角の良し悪しの吉凶など俗信や迷信にとらわれた生き方を必要としないからです。

●正定寺の交流

5月20日(日)は宗祖降誕会とすずらん TERA カフェ。法話の講師は、兵庫県養父市八鹿にある真宗大谷派(東本願寺)の正定寺藤原慎住職。「正定寺ご縁トーク」として対談も予定しています。なお、正定寺は全国に19ヶ寺あり、今秋には宮崎県都城市にある同じ浄土真宗本願寺派の正定寺へ参拝予定です。



二尊堂



御鏡開

ドローン映像を観賞



子ども報恩講



御正忌報恩講

通夜布教をライブ中継



シンポジウムポスター



雪景色

主な法要行事の報告

◆1月

1日(月) 元旦会

* 1日午前1時より正信偈のお勤め。改修された二尊堂を3日まで開帳。 詳細次ページ

「菩提樹」64号発行

5日(金) 御鏡開

おかがみびらき

御鏡開

* 東京在住の音楽家 SEIGO 氏がドローンで撮影した向渕の映像を観賞。

門徒総代会

7日(日) 子ども報恩講

8日(月) 廻り報恩講<馬場出>

9日(火)~16日(火) 御正忌報恩講

10日(水) 初齋法要・ご法話会

13日(土) 廻り報恩講<宗脇>

15日(月) 御正忌報恩講大遠夜

* 本山・西本願寺の通夜布教をライブ中継で聴聞。

16日(月) 宇陀市文化財課調査 * 正定寺所蔵の法宝物の調査

18日(木) 公開シンポジウム「田園回帰の時代」

* 西本願寺で開催のシンポジウムに参加。

正定寺が行事告知ポスターに採用される。

20日(土) 21日(日) 廻り報恩講<西出下>

27日(土) 廻り報恩講<大垣内>

◆2月

1日(木) 月初晨朝勤行

3日(土) 廻り報恩講<上出>

護法会総会

4日(日) 宇陀北組門徒総代研修会

* 榛原・美榛苑で開催。 詳細次ページ

向渕仏教婦人会総会

10日(土) 11日(日) 廻り報恩講<中村>

10日(土) 門徒総代会

16日(金) 宗祖月忌法要

17日(土) 18日(日) 廻り報恩講<西出上中>

17日(土) 子ども涅槃会

22日(木) 涅槃会・ご法話会

24日(土) 門徒総代会

28日(水) 存覚上人御祥月法要

◆3月

1日(木) 月初晨朝勤行

4日(日) 仏具磨き(中村)

◆「菩提樹」送付のご希望がありましたら、お申し付けください。またホームページにPDFで掲載しています。ご家族、ご親族、向渕を故郷とされる方などにおすすめてください。

◆仏事や年忌、仏壇やお荘厳などの相談を多く受けております。正定寺、または住職東森尚人 携帯 090-7369-9753 までお気軽に、ご遠慮なくお寄せください。



除夜の鐘



元旦会

ご本尊のお飾り



宇陀北組
門徒総代研修会

お知らせ

毎年宗祖降誕会で「竹絃ちくげん遊ゆうの会」奉仕による琴と尺八の演奏を行なっていますが、今年は奈良県文化振興の音楽イベント

「ムジークフェストなら2018」連携行事として開催します。
参加無料です。



5月中旬より6月初旬まで境内にはスズランが咲きます。昨年は約300人が来られました。正定寺の特色の一つは「スズランの寺」です。さらに広報、おもてなしに努めます。

法要・行事の子細

◆年末・年始

12月31日(日)

大晦日、除夜会を17時よりお勤めし、23時20分よりご門徒など集まられた25名で除夜の鐘をつきました。

1月1日(月)

0時に本堂余間で、住職・前住職・新発意しんぱちと馬場の長者末裔・奥谷家(当主 奥谷正氏)と新年の挨拶。引き続き昨年修復工事の終了した二尊堂で新年最初の勤行「十二礼」をお勤めしました

1時からの元旦会は、正信偈(草譜)、現世利益和讃で約60名のご門徒とお勤めしました。続いて住職の法話。『拝読 浄土真宗のみ教え』の「お正月」を拝読し、新年を迎えた意義とともに、本年が開基670年、本堂再建250年に当たることから、「開基存覚上人のご遺徳と聞法の道場である本堂の意義を深く味わい、お念仏の日暮しをさせていただきましょう」と法話しました。飯降信義門徒総代より挨拶の後、「存覚さま」を歌い終了しました。

元旦会は、1日15時、2日、3日はともに7時と15時からお勤めし、二尊堂の法宝物を開帳しました。また、2日には、住職が奥谷家にお参りました。3日間でのべ約80名の参拝でした。

◆宇陀北組門徒総代そ研修会

2月4日(日) 宇陀市榛原・美榛苑

正定寺が所属する宇陀北組は、宇陀市東部(榛原、室生)および宇陀郡(曾爾村、御杖村)にある21ヶ寺で構成されています。毎年2月に全寺院の門徒総代を対象に研修会が開催され、住職も列席しともに学びを深めています。

今年の研修会では最初に讃仏偈の勤行、正定寺門徒総代で宇陀北組門徒総代会今西健一会長や稲本広正奈良教区教務所長が挨拶。引き続き、京都新聞社文化部長・論説委員で京都府与謝野町浄福寺の住職でもある三田真史氏が「地域が元気になれば、お寺も元気になる」のテーマで講演されました。

三田氏は、みんなで協力し合い「ありたいお寺づくり」をすることが重要で、3つの要素①集いの場、②学びの場、③ケアの場を寺院機能として考え、どれか一つ毎年力点を置いて取り組むことを提言されました。①は誰もが楽しいと感じる多様なイベント、②は法話の聴聞やお経練習会、③は悩み相談や話し合いを指し、3つの要素を循環させ「くるくる回す」ことが理想とされました。さらに3つの視点、①地域、②外部、③女性の視点で考え、「3×3」の多様な寺院のあり方が創出されることができ、過疎など地域の課題を共有する中、ともに前向きに歩むことの必要性を強調されました。

研修会を受け正定寺では、今後の取り組みについて、総代会で協議を重ねました。2018年度は実践目標として「正定寺 プラスワン ～1人でも多くの方とご縁を～」を目指します。法要、行事などで1人でも多くの方にご縁を結んでいただき、聞法の道場として、また開かれたお寺として歩みを進めたいと思います。